

巻頭言 社会的記憶装置としての図書館と神図協の役割	1
特集：神図協 この1年の動き	
地域資料委員会、大学図書館協力委員会	2
研修委員会、広報委員会	3
連載：わたしのイチオシ 鎌倉市中央図書館「世界と未来へつながる小さな資料室から」	4
神図協事務局から 令和5年度 神奈川県図書館協会 臨時総会（書面） 開催報告	5
神図協事務局から 令和5年度人材育成事業 助成対象研修参加報告	6

## 社会的記憶装置としての図書館と神図協の役割

企画委員会委員長 （川崎市立中原図書館）

小島 久和

今年年初に大きな地震がありました。被災された地域や図書館の皆様には一日も早い復興、復旧を祈念しております。

さて、図らずも昨年は関東大震災から100年目の年でした。この震災では多くの人命だけでなく、図書館も被害を受け、貴重な資料が失われました。100年後の現在、震災の記憶を風化させないために各図書館では特集コーナーや関連資料の展示などをされたことと思います。川崎市でも関東大震災だけでなく、その後も続く災害や防災に関する資料を集めました。特に東日本大震災では本市南部の図書館で本の落下被害があるなど、未だ記憶に新しいところです。今回の能登半島地震でも多くの図書館で甚大な被害があったと仄聞しております。

公共図書館は利用者への資料提供だけでなく、社会的記憶装置としてのアーカイブ機能を持ちます。特に地域の人々の記録である郷土・地域資料は他の図書館では所蔵されないものが多く、それぞれの館にとって貴重なコレクションとなるものです。

図書館職員は、地震に限らず様々な災害に対応し、資料が保全できるように資料防災についても日頃から意識しておく必要があります。貴重な図書館

資料をどのように後世に伝えるのか、図書館の役割がさらに問われていくと思います。

川崎市は今年で市制100周年を迎えます。市立図書館は蔵書175冊の町立図書館から始まり、現在195万冊にまで達しましたが、次の100年、これらの貴重な資料をどのように守っていくのか、自然災害だけでなく様々な状況を想定しながら考えなければならない課題です。

神奈川県図書館協会には公共図書館のほか、大学図書館や専門図書館など異なる館種の図書館が加盟しています。各委員会ではそれぞれの図書館の課題等を検討協議し、解決へとつなげていますが、いろいろな館種の職員が互いに話し合う機会を持つことで、新たな視点に気づかされることが度々あります。資料保全のあり方についても、それぞれの施設の実情に合わせて検討されるべきですが、多くの図書館が共通の問題として認識することで、より良い方向性を見出すことができるのではないのでしょうか。そのためには加盟館全体で各館の課題が共有でき、様々な館種の考えを知ることができる神図協の役割や必要性がこれからますます高まっていくものと思います。

### 地域資料委員会

地域資料委員会は、「地域資料に関わるサービスの調査研究のための諸事業」を目的とし、近年ではデジタル化による資料の利活用を中心に取り組みを進めてきました。

令和5年度は、前委員からの引継ぎを受けた取組みを進めるにあたり、まずは「コロナ禍」の影響で急速に変化しつつある状況の共有を行うことから着手することにしました。

その手法は、一方的になりがちなオンラインやアンケート方式ではなく、地域資料担当者同士の「顔が見える」関係性の構築にも繋がるように数年間実施が難しかった集合型研修としました。

2月に開催した研修会には様々な館種・規模の関係者が集まり、「地域資料の現在とこれから～利活用を中心に～」をテーマに、県立図書館、川崎市立中原図書館、横浜国立大学附属図書館の3館から事例発表をしていただいた後に、グループに分かれて意見交換を行いました。



久しぶりの集合型研修ということもあり、テーマとした利活用だけではなく、保存や収集のあり方など様々な内容について、予定時間を超えた活発な意見交換を行うことが出来ました。

アンケートでは「課題に感じていることについて、他館の取組みを聞くことが出来てよかった」「自館の取組みに繋がるアイデアを得ることが出来た」といった感想をいただきました。

任期2年目にあたる令和6年度は、本研修会でいただいた感想や意見などを踏まえながら、加盟各館の運営に資する取り組みを進めて参ります。

[委員長 二宮町図書館 竹本 直昭]

### 大学図書館協力委員会

2023年より大学図書館協力委員会委員長を務めております、鶴見大学の牧で御座います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

大学図書館協力委員会では、図書館運営に係る様々な問題について議論を重ねており、令和5年度は運営委員会を3回実施いたしました。

コロナ禍が5類感染症に移行し、社会生活が正常化する中、大学でも殆どの授業が対面で実施されるようになりました。そこで昨年度に続き「with コロナ、after コロナで止まらない図書館づくり」というテーマの下、コロナ禍蔓延を契機として表面化した「利用者の潜在的ニーズ」が、after コロナに於いて、どの様なサービスとして普及したのか、事例を挙げながら検証いたしました。

その結果「オンラインレファレンス」や「オンラインガイダンス」「電子ブックの積極的導入」「図書郵送サービスの継続」「VPN接続の導入」等の事例が挙げられ、大学図書館はコロナ禍対応のプロセスを経て、そのサービスを拡大させ、学術情報の収集蓄積・情報発信の拠点として、存在意義を更に高めたことが確認されました。

コロナ禍関連の協議が一段落したことから、第2回目以降は「書庫・狭隘化対策」を検討課題として挙げ、各館から「学外倉庫への保管」「インターネットで代替可能な書籍の除籍」「電子書籍の収集」等の事例が挙げられました。

外部倉庫保管については、継続的に莫大な経費を要する事から「安価な外部倉庫」や「除籍の基準」など活発に情報交換がなされました。その他「学外利用者の登録認証基準」や「外部開放に伴う迷惑利用者対応」「障がい者サービスの体制」「資料の公衆送信に係る特定図書館申請」など問題提起され、情報共有・意見交換がなされました。

この様に、国立、公立、私立と設置母体は異なりますが、各大学図書館の取組を共有し、共通課題について議論を交わすことで、利用者サービス向上に繋げており、これらの検討結果を公開することで、公共図書館など加盟各館運営の参考にしていただけるのであれば幸いです。

引き続き、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

[委員長 鶴見大学図書館 牧 幸男]

## 研修委員会

令和5年度は、施設見学や集合研修、オンライン研修等、さまざまな形態で研修を実施するとともに、図書館総合展フォーラムを4年ぶりに開催しました。研修の形態が多様化する中、各委員が工夫し、6回の研修会を開催し、多数の方に参加いただくことができました。

今年度の活動の概要は次のとおりです。詳しい報告はホームページをご覧ください。

(<https://www.kanagawa-la.jp/>)

回数	研修テーマ・講師 (敬称略)	開催日
第1回	施設見学 「神奈川大学みなとみらいキャンパス図書館」	9/12
第2回	図書館総合展フォーラム 「共に体験と感動を ユニバーサル絵本ライブラリーUniLeafの活動について」 講師 大下 利栄子氏 (ユニバーサル絵本ライブラリー UniLeaf 代表)	10/24
第3回	神奈川県子ども読書活動推進フォーラム 講演「翻訳の言葉、言葉の翻訳」 講師 金原 瑞人氏 事例発表 相模女子大学中部・高等部図書委員会	11/3
第4回	講演「子どもの本の紹介文の書き方」 講師 川上 博幸氏 (前日本図書館協会児童青少年委員会委員)	11/21
第5回	講演「図書館における「読書バリアフリー」の推進に向けて」 講師 野口 武悟氏 (専修大学文学部教授)	12/8
第6回	施設見学 「東京都中央区立京橋図書館」	2/20

[委員長 横浜市中央図書館 久保寺 信行]

## 広報委員会

広報委員会では協会報の発行、ホームページの管理、図書館総合展でのブース展示を行いました。今年度の活動内容は以下の通りです。

### 1 協会報の発行 (年4回発行)

年4回広報委員会を開催して協会報各号の方針を決め、編集・校正等はメールのやり取りで行い、効率よく発行できるよう心がけました。

○283号 (7月1日発行)

令和5年度神奈川県図書館協会総会報告

○284号 (10月1日発行)

特集：「川崎市立図書館新システムが稼働しました！」

研修会レポート 講演会「絵本に願いをこめて」わたしのイチオシ 関東学院大学図書館「関内デジタル図書室」

○285号 (1月1日発行)

特集：「第25回図書館総合展2023」ブース出展、フォーラム報告

わたしのイチオシ 横浜市中図書館 ～文部科学大臣表彰を受賞して～

○286号 (4月1日発行)

特集：神図協 この1年の動き

わたしのイチオシ 鎌倉市中央図書館「世界と未来へつながる小さな資料室から」

神図協事務局から 令和5年度神奈川県図書館協会 臨時総会 (書面) 開催報告、令和5年度人材育成事業 助成対象研修参加報告

### 2 第25回図書館総合展におけるブース展示

今年度は10月24日(火)と25日(水)の2日間、パシフィコ横浜のアネックスホールで開催されました。数年ぶりの実地開催に加え、従来よりも狭いブースでの展示となり、会場は大変賑わいました。来場した皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。そうした中、協会作成のリーフレットは持参した800部を完配したほか、協会ロゴ入りのノベルティも好評でした。総合展のホームページで公開されたオンライン会場においても専用のページを設け、手探りながらも初のハイブリッド開催に手応えを感じた次第です。また、協会へのアンケートを多数回収したので、今後の運営に役立てていきたいと考えています。

[委員長 大和市立図書館 松田 彰]

## 連載 わたしのイチオシ

### 鎌倉市中央図書館「世界と未来へつながる小さな資料室から」

鎌倉市中央図書館の近代史資料室は、昭和52年(1977年)に「鎌倉近代史資料収集室」として鎌倉市中央図書館に開設されました。主に図書資料を扱う郷土資料コーナーとは別に、幕末以降の鎌倉に関するさまざまな文献資料(古文書・古地図・写真等)や文物(高札・マンホールの蓋・念仏講道具等)の収集整理をしている、時代を限定して地域資料を扱う全国的にも数少ない資料室です。

現在では約100のコレクション、文書箱500箱以上の資料を保存しています。また、戦争遺跡や谷戸、関東大震災についての聞き取り調査やフィールドワークを実施し、これらの資料や情報をもとに調査研究を進め、「鎌倉近代史資料」第1～15集や「近代史資料室だより」1～8号としてまとめるほか、図書館をはじめ、市内各地での展示公開を行っています。

平成27年(2015年)から古絵図、写真、絵葉書等のデジタルデータの図書館ホームページ上での公開を開始し、令和4年(2022年)には県内の図書館として初めてジャパンサーチと連携したことで国内外から検索利用の機会が格段に増えました。

30年以上前から写真収集を行っています。図書館からの「鎌倉の古い写真がみなさんのお宅に眠っていませんか?」という呼びかけに200人以上の方から写真資料が提供されています。この中から3人の写真家による観光地だけでなく日常の鎌倉を切り取った写真記録集『古都鎌倉へのまなざし1950-1985』が生まれました。

制作にあたり、ガバメントクラウドファンディングを行うことで広く市外の方へも呼びかけと出版費用のご協力を得ることができ、令和5年(2023年)3月に発行することができました。

(一般書店でも発売中で、税込3,000円です。)



『古都鎌倉へのまなざし 1950-1985』



国鉄横須賀線 鎌倉駅東口 昭和32年(1957年)

また、市民ボランティアの皆さんとの共同調査や古文書整理も行っています。普段使いなれた図書館の中でこうした研究を市民と一緒にできることが、資料の収集においても、活用においても大きな利点であることを実感しています。

令和5年(2023年)は関東大震災100年に因み、残された写真や記録類、手記等を展示しました。ギャラリートークと共に、現在、地域や学校・家庭で取り組んでいる防災活動について地域の自治会の方々との経験交流を行いました。市民の方と情報を分かちあうことで、各地域での展示会や図書館資料を活用した地域での資料の掘り起こしにつながり、新たな資料の作成へと次のステップにつながっています。

それがまた図書館資料になり、未来の市民へのかけがえのない遺産となるのです。

(鎌倉市中央図書館近代史資料担当 浅見佳子)



関東大震災 由比ヶ浜海嘯のあと

令和5年度一般会計予算の修正について、12月5日付書面にて臨時総会を開催したところ、原案どおり承認されましたので、経緯と結果を報告します。

令和5年度通常総会（5月11日開催）で承認いただいた「令和5年度一般会計予算」の収入の一部計上漏れがあることが確認されたため、令和5年度予算について修正する必要が生じました。

修正箇所は以下になります。

【一般会計 収入の部】

「1 分担金等収入(各館分担金)」

R5 予算額「1,512,000」を「1,520,000」に、増減額「0」を「8,000」に修正する

「計」

R5 予算額計「3,227,039」を「3,235,039」に、増減額計「98,610」を「106,610」に修正する

<総会承認予算>

収入の部				
款 項	目	R5予算額	R4予算額	増減額
1	分担金等収入	1,653,400	1,662,400	△ 9,000
	各館分担金	1,512,000	1,512,000	0
省略				
計		3,227,039	3,128,429	98,610

<臨時総会承認予算>

収入の部				
款 項	目	R5予算額	R4予算額	増減額
1	分担金等収入	1,661,400	1,662,400	△ 1,000
	各館分担金	1,520,000	1,512,000	8,000
省略				
計		3,235,039	3,128,429	106,610

【一般会計 支出の部】

「4 予備費」

R5 予算額「383,139」を「391,139」に、増減額「△661,590」を「△653,590」に修正する

「計」

R5 予算額「3,227,039」を「3,235,039」に、増減額「98,610」を「106,610」に修正する

<総会承認予算>

支出の部				
款 項	目	R5予算額	R4予算額	増減額
省略				
4	予備費	383,139	1,044,729	△ 661,590
計		3,227,039	3,128,429	98,610

<臨時総会承認予算>

支出の部				
款 項	目	R5予算額	R4予算額	増減額
省略				
4	予備費	391,139	1,044,729	△ 653,590
計		3,235,039	3,128,429	106,610

修正にあたり、会則13条(1)に基づき、総会での審議が必要なことから、総会の開催について、理事会に書面による形式(10月28日付)で諮ったところ、副会長及び理事19名中19名から議題「臨時総会の開催可否について」が承認されました。

この結果を踏まえて、12月5日付書面にて臨時総会を開催し、審議事項である「令和5年度一般会計予算の修正について」は、加盟館136館中120館(未回答16館)から、原案どおり承認されました。個人会員よりの意見は次のとおりです。

・個人会員より意見：図書館の新規入会は歓迎すべきことと思います。収入の増額も喜ばしいことと思います。

以上の経緯により、令和5年度一般会計予算を修正いたしました。

(神奈川県図書館協会事務局)

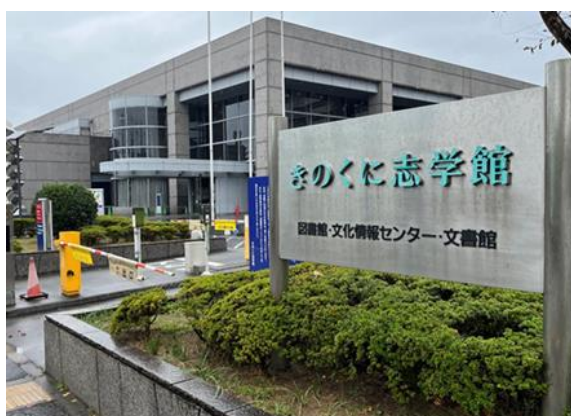
神奈川県図書館協会では、2018年に迎えた創立90周年を記念し、2019年度～2023年度までの5年間、「外部団体の研修へ参加する機会を増やし、会員の資質向上を図り、神奈川県全体の図書館司書の力量を高めることを目的」とする趣旨のもと、あらかじめ定められた研修に参加する際の経費を助成する事業を行いました。

コロナ禍では、オンライン開催や開催中止となる研修が多い時期もありましたが、令和5年度は、現地での開催を再開する研修が増え、当事業への応募者は3名となりました。この度、応募者より参加の報告がありましたので、感想の一部を掲載いたします。

助成対象研修への参加報告書の全文は神図協HP「人材育成事業」のページに掲載されております。<https://www.kanagawa-la.jp/upbringing>

人材育成事業全体についての報告は、令和6年度総会にて行う予定です。

【令和5年度全国公共図書館研究集会  
 <サービス／総合経営部門>（和歌山）】  
 日時：令和5年11月9日（木）～10日（金）  
 会場：ホテルアバローム紀の国、  
 和歌山県立図書館  
 テーマ等：「図書館とSDGs—図書館ができる  
 持続可能な取り組み—」  
 助成対象者：1名（公共図書館）



和歌山県立図書館外観

「図書館員が「本や情報の提供が図書館の仕事」という固定観念に縛られている限り、予算的にも社会的な要請においても図書館の位置づけは現状維持すらかなわないであろう。

勤務する図書館も開館から7年が経過し、新たな展開を模索しているところ。今回学んだことをこれからの運営にもしっかりと反映させていきたい。この度は貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございました。」

【第109回 全国図書館大会 岩手大会 2023】  
 日程：令和5年11月16日（木）～17日（金）  
 会場：盛岡地域交流センター（マリオス）  
 いわて県民情報交流センター（アイーナ）  
 テーマ等：理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える～希望ある未来は図書館とともに～  
 助成対象者：2名（大学図書館、公共図書館）



全国図書館大会会場の様子

「MARC21等、海外を見据えたメタデータスキーマを理解し、メタデータ間の変換マッピングを提案できるようなスキルを身に着けることが『メタデータの国際流通への一歩』であり、オープンサイエンスの一助に繋がる道筋だと、今大会を通じ新たな幸いへの扉を見出すことができました。貴重な機会をいただき誠に有難うございました。」

「コロナ禍で対面形式の研修の機会を多く逃してきたが、この機会をいただけて自身の視野を広げることができた。今回得た知見を自身の業務に落とし込んで、できることから取り入れていきたい。」

（写真はいずれも報告者撮影）